



ナビゲーション

——— 自立への道案内 ———



ナビ主催の遊び企画、「スナックあした」より。

もくじ

●社会資源調査（お寿司屋編）（山下大祐）	2
●連載エッセイ最終回（筒井純子）	4
●編集後記	6

社会資源情報

お寿司屋編

調査日:2011年6月30日(木)

調査者:電動車いす使用者1名 手動車いす使用者1名

調査場所:無添くら寿司 長吉出戸店

住所:547-0011 大阪府大阪市平野区长吉出戸6-14-32

電話番号:06-6797-5011

営業時間:11:00~23:00 土日祝は10:20から営業!

最寄り駅:大阪市営地下鉄谷町線出戸駅 出戸駅から歩いて約10分



おすし屋調査編だよ!

●駐車場・駐輪場●



障害者用駐車場スペース1ヶ所あり。調査へ行った時は、スペースに自転車が置いてあり、駐車できる状態ではなかった。

●入り口の様子●



まずは、手動扉(引き)があり、次に自動ドアがある。手動扉は一度開けると固定出来ず、誰かにドアを支えてもらっていないと入りづらい。どうして、2回も扉があるんだろう…。たとえ2回扉があったとしても、両方、自動ドアの方が入りやすいと思うんだけどなあ…。

●店 内●

総座席数:200席
きる。

カウンターテーブルの高さ約73cm。ほとんどが105円で食することがで



ドリンクは、セルフサービスになっている。店員さんにドリンクを注ぐ作業を手伝ってもらったり、そのドリンクを席まで持って行ってくれたりして、対応は良かった。

●障害者用トイレ 1ヶ所あり●

「どなたでも利用できます」と標記あり。車いす1台分は入れるが回転は出来ない。両方に手すりが付いている。



☆感想☆

店内は広く動きやすく、店員の対応、障害者用トイレなどの設備面では利用しやすかったが、カウンターからレーン機械までが車いすでは少し遠くてお寿司が取り辛かった。

エッセイ(最終回)

もはや、いつの間にか運動はライフワーク！？

これからの障害者運動に期待するもの、求めていくもの ～特に女性障害者として訴えて
いきたいこと～

筒井 純子

う～ん、この「お題」はなんか難しいですね！ 誤解を恐れずに言うと、私はこれまで
も、多分これからも「障害者運動に何かを期待したり、求めたりすること」は、ないと思っ
ています。

差別・偏見は常に具体的な生活の中から生まれてくるもので、それに対して許せないと思
い、何か行動に移すかどうかの問題であり、それを「運動」と呼ぶのかもしれませんが。結
局、自分がどう生きるのか、どう生きたいのかに集約されるものだと思います。

私は冒頭でも述べたように、小学校入学は、「他の子どもに迷惑がかかるから就学猶予・
免除」で2年間遅れ、きょうだいや友達と一緒にには行けませんでした。これが「養護学校義
務化阻止」の活動となり、また、就職しようと思ったら、「職種がない」という理由で不採
用になりました。これが労働問題に関わり、就労支援センターの設置運動をやらせてもら
うことにつながり、車いすの友人と出かけるとき、段差だらけの街と階段だらけの駅、バスに
乗ろうとしたとき「なぜ介護者を連れてないのか？」と強く言われたり、乗車を拒否され
たり差別的な対応を何度もされていました。これが交通・まちづくりの活動に関わることにな
っていったと思っています。

女性ということ言えば、別の友人は妊娠したんじゃないかと産婦人科を訪れ、妊娠とわ
かったとき「おめでとう」ではなく、「産むんですか？」と怪訝な顔をされ、深く傷ついて
いました。

「専門家」と呼ばれる人たちは、障害者を「医療モデル」として手術や訓練を強要し、本
人の意思は無視されてある者は病院へ、またある者は施設へ振り分けられました。そして、
施設の中で「生理の始末が面倒だから」という理由で、強制的に子宮摘出手術を受けさせら
れた女性障害者は少なくありません。一方では、出生前診断という医療技術によって、受精
卵の段階で障害があるかないかの確率を調べ、障害の可能性があれば、「障害を持って生ま
れることは不幸だ」と決め付けられ、結果的に中絶を強いられているのです。

これらが、母子保健センター建設阻止の運動やコロニー解体・入所施設建設反対運動、そ

して後の優生思想を問うネットワークの活動へとつながっていったものと思われます。

ただ、それまでの私は、比べるものではないかもしれませんが、女性であることの差別や偏見よりも障害者として受けるものの方が、より多く、より鮮明だったように思います。

私が強く、女性障害者差別・偏見を感じたのは高校3年のときでした。

高校2年のとき、当時付き合っていた（付き合うまでも色々あったのですが、それはさておき）彼と、将来のビジョンについて語り合っ、うっすらとこの人と一緒に生きていくんだろうなあ！とっていました。そんなある日、彼の母親と会う機会が設けられ、あいさつを交わした後、彼女から出た言葉は「よりによって障害者を選ぶなんて。何にもできないでしょう？」というものでした。もう2～3年後の私なら「何言うてんねん！それがどうしてん！」と心でツッコミながら、笑顔で「すばらしい息子さんに育てられましたね。こう見えて案外何でもできるんですよ。」とか何とか言い返したかもしれませんが、当時は次の言葉を失い、乙女（？）心を深く傷つけられたことを覚えています。結局彼とは別れてしまいましたが、そのことがあってジェンダーの問題や女性の解放って何だろう、女性であり障害者である私のアイデンティティーについて考えるきっかけを与えてくれたと思っています。

さて、もうそろそろシメに取り掛からないといけませんが・・・。

最後に、「専門家」と呼ばれる人たちや障害者と付き合ったこともない人たちは「迷惑だから・危ないから・面倒だから・不幸になるから」と勝手に障害者の人生を決め、地域社会から分断し、強いては生まれてくることさえ許さないでいるのです。

繰り返しになりますが、差別・偏見は常に具体的な生活の中から生まれてくるものだと思います。この差別的な社会のあり方の中でともすれば、自分自身が差別する側、偏見を持ってしまう側に立っているかもしれません。

だからこそ、自己点検を怠らず、差別を見抜く力と感性を養い、差別を許さない怒りを持ち、差別と闘う運動を構築していくことが大切なのではないかと、改めて痛感しています。

与えられた「お題」に十分応えられていないなあという思いでいっぱいですが、本当に申し訳ありません。それにもかかわらず、みなさんには取り留めのない話に最後まで付き合ってくださいありがとうございました。

編集後記

今年は例年になく梅雨が短く、あっという間に「夏」到来といった感じですが、みなさんいかがお過ごしでしょうか？私は頸髄損傷という障害のために体温調整機能がうまく働かず、全くといっていいほど汗が出ないので、夏はとても大変です。外出時の暑さ対策としては、帽子はもちろん、ペットボトルを凍らせた飲み物、首に巻くアイスノン、顔や手に水をかけるための霧吹き、うちわなどです。これだけ準備をしても、帰ってくる頃にはぐったりとなってしまう。外出時に気をつけていることは、日陰を見つけてなるべく直射日光に当たらない、コンビニやスーパーなど涼しいところにちょこちょこ非難する、そして一番重要なのは「引き際」を見極めることです。限界まで我慢してしまうと後が大変なので、多少余力が残っているうちに帰路に着くことを心がけています。これから夏本番ですが、みなさんもくれぐれも熱中症にはお気をつけください。

ところで、お気づきのこととは思いますが、今号よりナビゲーションは記事を減らすこととなりかなり薄くなってしまいました。他の業務との兼ね合いでなかなか難しいのですが、今後も細々と発行し続けていきたいと思っていますので、応援よろしく願いいたします。

(まつぎ)

▽-△-▽-△-▽-△-▽-△-▽-△-▽-△-▽-△-▽-△-▽-△-▽-△-▽-△-▽-△-▽-△-▽

自立生活センターナビとは…

☆ 私たちの考える「自立」は…

働いてお金を稼ぐ事や身の回りのことを全部自分で出来るようになる事、それだけが「自立」でしょうか？もちろんそれも大切なことですが、できない事は人の手を借りたり、気持ちを上手く伝えられないときには仲間にサポートしてもらったりしながら、一人一人の生活を創っていくことも「自立」に色々な方法でお手伝いしていきたいと考えています。

☆ 地域で障害者の自立を実現していくための「道案内（ナビゲーター）」として例えば「介護してくれる人を探しているんだけど？」「家の中をもっと使いやすくしたいけどどうすればいいの？」そして「自立したいけど自分には無理かな？」

自立生活センター・ナビでは、こうした障害者や家族の悩みや相談について、障害を持つピアカウンセラーが同じ障害者の立場でお話を伺い、制度の説明や申請のお手伝い、住宅改造などのアドバイスをさせていただきます。その他、電動車いすで街へ出かけたり仲間と一緒に料理を造ったり地域で生活していく上で必要なことを、楽しみながら経験できる「自立生活プログラム」や、自立生活に関わる各分野の方々をお招きしてお話を伺う「自立生活セミナー」の開催、情報誌「ナビゲーション」の発行も行っています。

はつこ

発行

じりつせいかつ

自立生活センター・ナビ

でんわ 06 (6760)2671

じゅうしょ

住所

〒546-0042 大阪市東住吉区西今川2-3-8

おおさかしひがしなみけにしきとしがき

ファックス 06 (6760)2672